

# 日本道德教育方法学会第31回研究発表大会プログラム

期 日 2025年6月14日(土)、15日(日)

会 場 四天王寺大学(四天王寺小学校、ともいきセンター 〒583-0026 大阪府藤井寺市春日丘3-1-78)

大会準備委員会委員長 杉中 康平(四天王寺大学)

主 催 日本道德教育方法学会

大会参加費 2,000円・・・会員、非会員ともWeb受付(申込)時にPeatixにより徴収します。

※ 昼食は両日ともWeb申込時にお弁当の案内をします。なお、藤井寺駅周辺にも飲食店はあります。

情報交換会 5,500円

日 程

## 【第1日】6月14日(土)

10:00 10:45 11:30 11:45 12:30 13:15 15:10 15:25 17:45 18:15 20:15

受付	研究授業 (小学校教室)	研究協議会 (小学校体育館)	昼食	自由課題研究発表 分科会I~III (ともいきセンター)	シンポジウム 「現代的な課題」を扱う 道徳科の授業と教材の在り方 (小学校体育館)	情報 交換会
----	-----------------	-------------------	----	------------------------------------	--	-----------

受付(ともいきセンター) 10時00分～10時45分

※ 研究授業参観者はこの時間帯にのみ受け付けます。

※ 午後から参加される方は、これ以降の時間帯にお越しください。

研究授業(小学校教室) 10時45分～11時30分

研究協議会(小学校体育館) 11時45分～12時30分

教室	授業者	授業コンセプト	教材	研究協議会司会
5年い組	嶋田 理央 (大阪府泉大津市立条南小学校)	批判的な問いに対する対話をとおして、多面的・多角的に考えることを促す授業	友の しょうぞう画	谷田 増幸 (兵庫教育大学)
5年ろ組	磯部 一雄 (立命館慶祥中学校・高等学校)	場面再現とホワイトボードを活用した対話によって、自己の生き方についての考えを深める授業		高宮 正貴 (大阪体育大学)
6年い組	川崎 雅也 (大阪府貝塚市立木島小学校)	子どもたちが、「1つの問い」をみんなできじっくり考え、一人ひとりが頭が痛くなるまで考え続ける授業	最後の おくり物	松原 弘 (立命館大学【非】)
6年ろ組	山本 孔輝 (兵庫県尼崎市立明城小学校)	子ども同士が互いの「おたずね」をとおして、多面的・多角的に考えることができる授業		杉中 康平 (四天王寺大学)

## 自由課題研究発表(発表25分、質疑30分)

分科会I(ともいきセンター501) 司会: 柴原 弘志(京都産業大学)

13:15～14:10 ① 道徳科における『よい振り返り』とは何か  
—基準の明確化と定義づけの試み—

中野 浩瑞(兵庫教育大学附属小学校)

14:15～15:10 ② 道徳科における個別最適な学びに関わる被教育体験と教育者としての実践との関係について

谷口 雄一(摂南大学)

## 分科会Ⅱ（ともいきセンター401） 司会： 植田 和也（香川大学）

13:15～14:10 ① 多面的・多角的な視点に立った道徳の授業づくり

—ICT活用の弊害を乗り越えて—

鈴木 賢一（愛知県弥富市立十四山東部小学校）

14:15～15:10 ② AI ロボットとの共生を問う授業

～「弱いロボット」の教材化を通して～

橋本 美砂子（兵庫県神戸市立神戸生田中学校）

## 分科会Ⅲ（ともいきセンター402） 司会： 上地 完治（琉球大学）

13:15～14:10 ① 道徳科授業における「考える」について問いなおす

—道徳科授業の実践事例を通して—

中山 真樹（大阪府高槻市立南大冠小学校）

14:15～15:10 ② 納得解と共通解を往還する道徳授業

—「ボールの決まり」の授業実践を通して—

糟谷 樹理（宮城県仙台市立北六番丁小学校）

## シンポジウム（小学校体育館） 15時25分～17時45分

### 「現代的な課題」を扱う道徳科の授業と教材の在り方

—道徳科と各教科等の違いを問いながら—

#### 企画趣旨

教科化に伴って道徳科でも「現代的な課題」を取り扱うことが明記された。『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』では、「様々な道徳的価値に関わる葛藤」「葛藤や対立のある事象」「答えの定まっていない問題」に言及されている。しかし、一口に「葛藤や対立」と言っても、例えば、価値観の異なる他者との共生という理念については合意が取れた上で多様な価値観を取り入れることの難しさがあるという葛藤なのか、それとも、生命倫理のように、自律、家族愛、生命尊重等の複数の相反する価値が葛藤・対立するのかという違いがあり、「葛藤や対立」や「答えがない」ことの内実は多様である。

また、現代的な課題については各教科や総合的な学習の時間等との関連が要求されるが、だからこそ「道徳科の特質とは何か？」が問題になろう。道徳科で現代的な課題を考える際には、道徳的諸価値の理解だけでなく各教科等で扱う知識理解も必要になるという議論が、教科化以降に多く見られた。しかし、そのことはかえって「道徳科における現代的な課題の扱い方の要件とは何か？」「道徳科で現代的な課題を扱うとはどういうことか？」という問題を生む。たとえ道徳科では現代的な課題を道徳的諸価値の視点で考えることが必要だという共通理解が得られたとしても、「現代的な課題を道徳的諸価値の視点で考えるとはどういうことか？」という新たな論点が生じる。例えば、『「生命が大切だ」と子どもが言ったり書いたりしただけで生命尊重の内容項目を扱ったことになるのか？ そうではなく、現代的な課題を通して道徳的諸価値の理解を深める必要があるのか？』という問いである。また、「個人の生き方の次元で考えるのか？ それとも、集合的行為の次元（法や政策等）で考えるのか？」という違いを踏まえると、道徳科では現代的な課題を個人の生き方として考えるということになるかもしれない。

このように、本シンポジウムでは「道徳科の特質とは何か？」という前回のシンポジウムの問いを引き継ぎながら、道徳科で現代的な課題を考える授業と教材について議論したい。

◇ シンポジスト

現代的な課題を扱う授業論の視点 尾崎 正美 (岡山県瀬戸内市立国府小学校)  
 現代的な課題を扱う教材論の視点 浅部 航太 (東京学芸大学)  
 道徳科と各教科、総合的な学習の時間等との関連や差異の視点  
 (カリキュラム・マネジメントを含む) 生田 淳一 (福岡教育大学)

◇ 指定討論者

小林 将太 (大阪教育大学)

◇ 司会

渡邊 真魚 (日本大学)

情報交換会 (藤井寺駅前 ベッカフィーコ) 18時15分～20時15分

【第2日】6月15日(日)

8:30	9:00	11:55	13:00	13:55	14:00	16:00
受付	自由課題研究発表 分科会Ⅳ～Ⅵ (ともいきセンター)	昼食	会員総会 (小学校体育館)	課題研究 道徳科における「深い学び」とは? (小学校体育館)		

受付 (ともいきセンター) 8時30分～9時00分

自由課題研究発表 (発表25分、質疑30分)

分科会Ⅳ (ともいきセンター501) 司会: 押谷 由夫 (昭和女子大学【名誉】)

9:00～9:55 ① 特別の教科 道徳の学びとは何か?  
 ～社会構成主義に依拠し再構築する～  
 丸岡 慎弥 (立命館小学校)

10:00～10:55 ② 教員を対象とした道徳科授業研修での学びとその活用に関する事例研究  
 伊住 継行 (岡山大学)

11:00～11:55 ③ 昭和40年代の道徳授業の歴史構築のための一考察  
 ～季刊『道徳教育の課題』全11集の内容整理を通して～  
 上田 博次 (公益財団法人上廣倫理財団)

分科会Ⅴ (ともいきセンター401) 司会: 渡邊 満 (広島文化学園大学)

9:00～9:55 ① 道徳科授業における学習者の学習有用感と教師の手立てとの関連性の検討  
 平 真由子 (金沢工業大学)

10:00～10:55 ② 道徳授業に対する教師の受け止めと手応えを感じる実践の工夫  
 —小・中学校教員対象調査の結果から—  
 ○範 蘭心 (東京学芸大学) 永田 繁雄 (東京学芸大学)

分科会Ⅵ (ともいきセンター402) 司会: 澤田 浩一 (國學院大学)

10:00～10:55 ① 演劇的手法の持ち味を活かした道徳科授業の試み  
 塩家 崇生 (兵庫県伊丹市立鴻池小学校)

11:00～11:55 ② アロハシャツは日本文化と言えるのか? 郷土愛についての対話教材の開発  
 中川 雅道 (神戸大学附属中等教育学校)

会員総会（小学校体育館） 13時00分～13時55分

課題研究（小学校体育館） 14時00分～16時00分

## 道徳科における「深い学び」とは？

### 企画趣旨

文部科学省「令和3年度 道徳教育実施状況調査」によれば、道徳の「特別の教科」化を受けた変化として、「児童生徒同士による話し合いや議論が活発になった」について「とてもそう思う」「どちらかというと思う」の回答割合の合計は86.9%（小中全体、以下同じ）であった。一方、道徳科の授業を実施する上での課題として「話し合いや議論などを通じて、考えを深めるための指導」を選択した回答割合は61.9%（全選択肢中でもっとも高い回答割合）、「道徳的価値の理解を自分との関わりで深めるための指導」を選択した回答割合は52.0%（全選択肢中で4番目に高い回答割合）であった。

この結果は、道徳科授業の「質的転換」をめざし「話し合いや議論」を積極的に取り入れているものの、それらが児童生徒の「深い学び」につながっているのだろうかという現場の先生方のある種の手応えのなさ、あるいは、そもそも「深い学び」とは、児童生徒がどのような姿になることなのかという疑問を反映しているのではないだろうか。

そこで、第31回研究発表大会の「課題研究」では、次期学習指導要領の改訂を見据えつつ、改めて道徳科における「深い学び」とは何かを、小中学校の実践における児童生徒の具体的な姿を基に議論したい。

### ◇ 課題研究 発表者

小学校での実践から	町田 晃大（東京都大田区立梅田小学校）
中学校での実践から	増田 千晴（愛知県江南市立宮田中学校）
教育方法学の立場から	松下 佳代（京都大学大学院）

◇ 指定討論者 服部 敬一（大阪成蹊大学）

◇ 司会 飯塚 秀彦（長野大学）